

4-6 魚類調査

相調査

別図に示す地点において、以下の手法を用いて捕獲調査を行います。

調査項目・方法（魚類）

調査項目	調査方法
捕獲調査	投網(21節、1200目)、たも網(径100cmの半円形)及び電気ショッカー(出力電圧100～1000V)を主体とした捕獲並びに目視確認によって行う。 捕獲した魚類は、魚種別個体数(成魚以外で種が不明の場合は、判明する限りの分類群別の個体数)と個体のサイズを記録する。また、生息環境(河川形態、河床材料、瀬淵の有無、水深、水温、周辺植生等)について記録する。

重要種調査

重要種が確認された場合には、確認年月日、確認地点の位置、個体数、確認地点の環境(瀬・淵・植生等)について整理します。

既往の現地調査における重要な種として、以下に示す4種が確認されています。

現在までに確認されている重要種（魚類）

科名	種名	H13	H15	文化財 保護法	種の 保存法	環 RDB 2003	北 RDB 2001
ヤツメウナギ	シベリアヤツメ					準絶滅危惧	希少種
サケ	ヤマメ						留意種
コイ	エゾウグイ						留意種
カジカ	ハナカジカ						留意種
4科4種							

確認された種は「 」で示した。

4.平成 16 年度平取ダム環境調査について

サクラマス調査

(1) 漁場環境調査（サクラマス幼魚分布・サクラマス産卵床調査）

額平川本流（貫気別第2頭首工から砂防ダムまでの区間に10地点）支流10河川24地点において、6月、9月にサクラマス幼魚の分布状況調査を実施する。

サクラマス産卵床については、産卵期である9～10月に平取ダム予定地点周辺の支流7河川および額平川本流砂防ダム周辺で実施する。

調査項目	調査方法
サクラマス幼魚分布調査	投網および電気ショッカーによる採捕。
サクラマス産卵床調査	目視による産卵床および遡上親魚の確認。

記録する項目は、以下のとおりとする。

- ・確認年月日
- ・確認地点の位置
- ・捕獲魚種
- ・個体数
- ・確認方法（採集方法等）
- ・魚体測定
- ・サクラマス産卵床については、河川内位置、規模、水深・流速および河床材料

4-7 底生動物調査

相調査

別図(魚類と同一)に示す地点において、以下の通り、定量調査と定性調査を実施します。

調査項目・方法

調査項目	調査方法
定量調査	調査地点における代表的な早瀬において、25cm×25cm コドラート付きサーバーネットを用いて8回の底生動物採集を行う。
定性調査	口径30cm程度の柄付きタモ網を用いて、淵や水生植物周辺に生息する底生動物を採集する。

重要種調査

重要種が確認された場合には、確認年月日、確認地点の位置、個体数、確認地点の環境(瀬・淵・植生等)について整理します。

なお、既往の現地調査における重要な種として、以下に示す2種が確認されています。

現在までに確認されている重要種（底生動物）

科名	種名	H13	H15	文化財 保護法	種 の 保存法	環 RL 2000	北 RDB 2001
モノアラガイ	モノアラガイ					準絶滅危惧	
ムカシトンボ	ムカシトンボ						留意種
2科2種							

確認された種は「 」で示した。

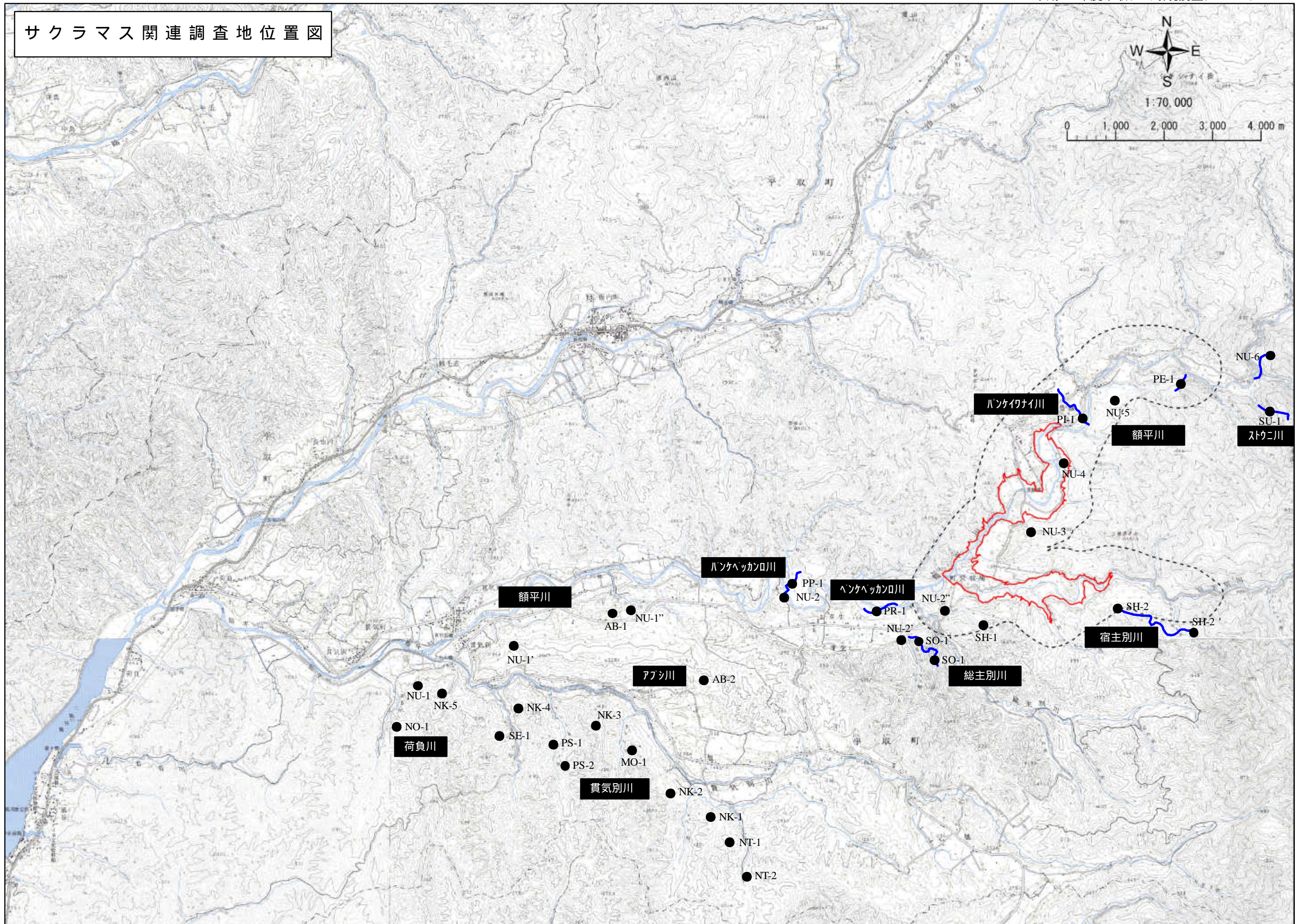
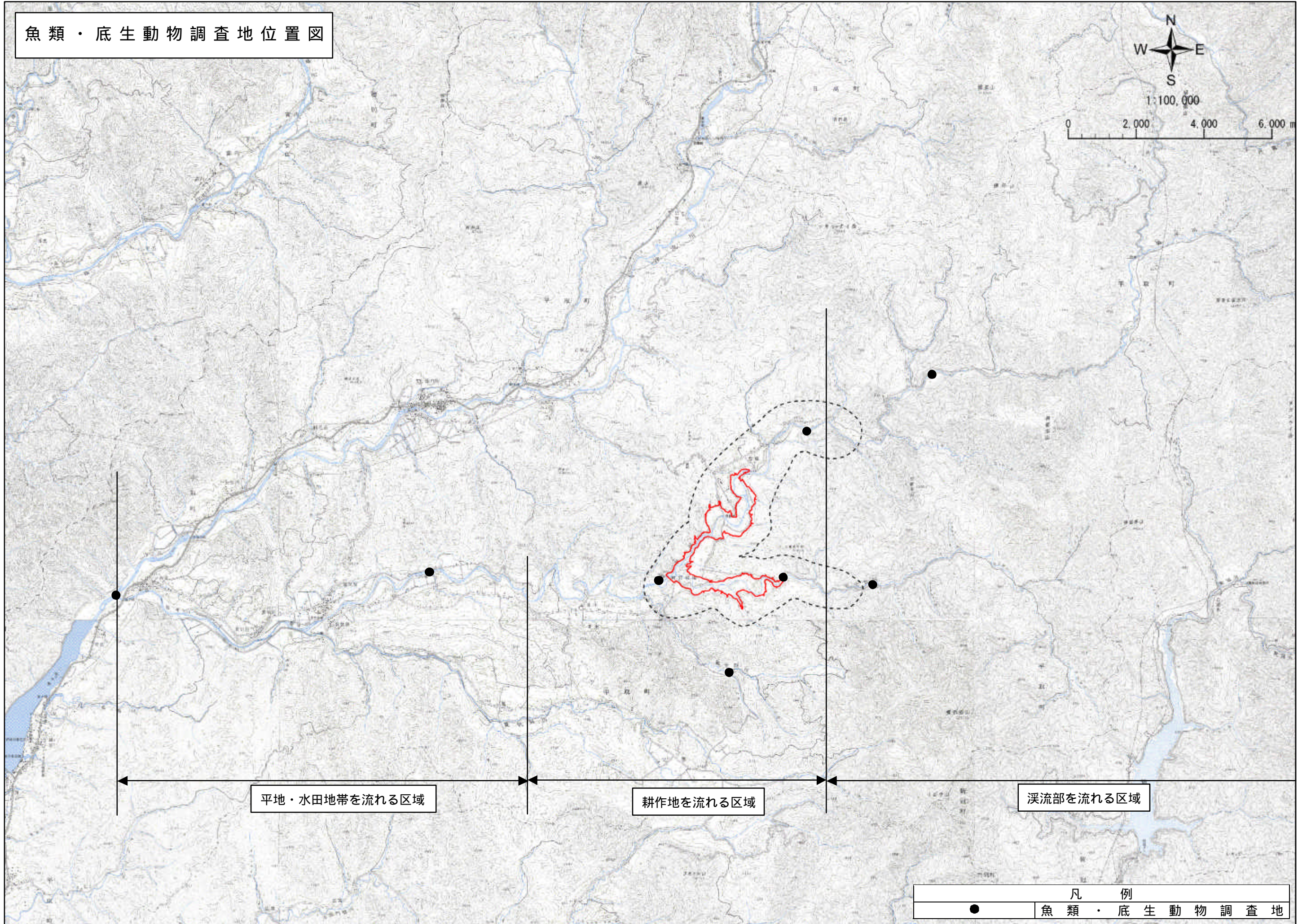
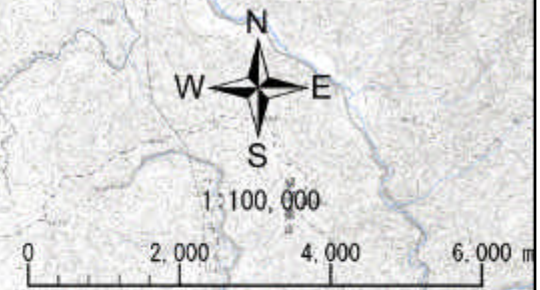


図 サクラマス関連調査地点 (青線は、サクラマス産卵床調査区間)

魚類・底生動物調査地位置図



平地・水田地帯を流れる区域

耕作地を流れる区域

渓流部を流れる区域

凡 例	
●	魚類・底生動物調査地